

# 美術科の本質

## 豊かな情操

- ・生涯にわたり美術を愛好する心情
- ・美術文化の継承と創造への関心
- ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の美術と主体的にかかわる態度

創造活動の喜び  
自己実現の積み重ね

豊かな感性の醸成

美術の創造活動

### 言語活動の充実

新たな見方や考え方に気づき、自身の見方や考え方を広げる

### 発想や構想の能力

- ・感じ取ったことや考えたことから主題を生み出し、主題などを基に表現の構想を練る能力
- ・伝える、使うなどの目的や機能と美しさを考え、表現の構想を練る能力

自己決定と課題解決、そして自己実現へ

# A 表現

### 〔共通事項〕

- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること
- ・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること

### 言語活動の充実

新たな見方や感じ方に気づき、自身の見方や感じ方を広げる

### 創造的な技能

- ・材料や用具を生かして、表現意図に合う方法を工夫するなどして創造的に表現する技能
- ・材料や用具、表現方法などを総合的に考えて、見通しをもって表現する技能

### 知識・視点 感性の育成

### 鑑賞の能力

自分の見方や感じ方を大切にして、作品などの意味や価値を考え、造形的なよさや美しさなどを感じ取り味わう能力

- ・造形的なよさや美しさ
- ・生活を美しく豊かにする美術の働き
- ・美術文化

# B 鑑賞

美術への関心・意欲・態度

題材との出会い

生徒や学校、地域などの実態

生徒の生き方

## 美術科の本質について

美術科の本質は、「中学校学習指導要領解説 美術編」の教科の目標にもあるとおり、全ての生徒に「豊かな情操」を養うことを実現するために、表現及び鑑賞の創造活動を通して「美術の基礎的な能力」を育成し、生徒がそれらの資質や能力を汎用して、試行錯誤しながら課題解決するとともに、自己実現を積み重ねることで、創造活動の喜びを味わわせるところにある。美術教育には表現のための技法の習得や美術を理解するために必要な知識の獲得を目的とする「美術の教育」と、美術の活動を通して人間形成を図る「美術による教育」という二つの側面がある。「豊かな情操」を養うためには、「美術の教育」を手段とし、「美術による教育」を目的として、そのどちらの側面も適切に関連させ、両立を図っていくことが必要であると考えられる。

## 美術科で育成する資質・能力

前述のとおり、美術科は全ての生徒に「豊かな情操」を養うことを目標としている。情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心である。それは、知性・感性・徳性などの調和の上に成り立ち、豊かな精神や人間としての在り方・生き方に強く影響していく高次の資質・能力といえるものである。また、「生涯にわたり美術を愛好する心情」や「美術文化の継承と創造への関心」、「生活や社会の中の美術と主体的に関わる態度」など、学校教育を離れ、社会をよりよく生きるために必要な能力を内包するものだと捉えている。その「豊かな情操」を養うためには、左図の通り「創造活動の喜び」を美術の表現及び鑑賞の全過程を通して、実感的に味わわせることが大切である。そして、「創造活動の喜び」は生徒が「自己実現を積み重ね」る充実した過程の中で得られるものである。

それでは、自己実現とは何だろうか。美術教育概論（大橋 功他編著）では自己実現とは「自ら探究、追求に値する課題（価値）を発見し、創造的に解決（価値実現）に向かい、人間としての全体的な統一性をもった成長」としている。「中学校学習指導要領解説 美術編」の教科の目標にある、「表現活動においては自己の心情や考え、イメージを基に自分が表現したいことをしっかりと意識して考え、それが自分の表現方法で作品として実体化していくこと」、「鑑賞活動においては自分の見方や感じ方に基づいて想像力を働かせて見ることで、作品に対する見方が深まり新たな発見をしたり感動したり、自分にとっての価値をつくりだしたりすること」がそれに当たるであろう。美術の創造活動の全過程の中で、「美術への関心・意欲・態度」を基に、「発想・構想の能力」や「創造的な技能」、「鑑賞の能力」などの美術の基礎的な能力を、〔共通事項〕を互いの視点として相互に行き来しながら高め合うことで、自己実現につながるのである。

## 美術科の本質に迫る授業づくり

美術の創造活動を通して育成する資質や能力を生徒に身に付けさせるためには、様々な題材を通して、付けるべき力を明確にした授業づくりをしていくとともに、生徒や学校、地域などの実態に応じてより生徒が学びやすい活動が設定され、生徒一人一人が題材を自分のものとして捉えていけることが必要である。また、表現と鑑賞の能力を相互に関連させながら高めていくために、発想や構想、鑑賞活動など感性を働かせて思考・判断していく場面では、自分の見方や考え方、感じ方を大切にしながらも、〔共通事項〕の視点を持ち、言語活動を通して、新たな視点や価値に気付く、自分の見方や考え方、感じ方を広げていくなど、本質に迫る授業づくりを実践していきたい。

### <参考・引用文献>

- 中学校学習指導要領解説 美術編 文部科学省（平成20年9月）
- 中等教育資料「育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にした美術、工芸における授業づくり」東良雅人（平成26年5月～）
- 大橋 功他編著「美術教育概論（改訂版）」日本文教出版2009年
- 福田隆真他編著「美術科教育の基礎知識（四訂版）」建帛社2010年